

山名持豊(宗全) 武將。細川勝元と室町幕府内の勢力を二分して抗争、<応仁の乱>を引き起こし、戦い半ばで病没。

やまなもちとよ

日明貿易成立1404 = 山名師義の娘を母に、_室町幕府幹部の武將で守護大名山名時熙の次男に生まれる。

足利義満没・1408 = 4歳：

..... 1413 = 9歳：

長兄満時は侍所頭人も務めたが若くして没し、次兄持熙も將軍義教に疎まれたため、嫡子となり、

..... 1422 = 18歳：_元服。將軍足利義持から一字を賜り持豊と名乗る。

義教籤引將軍1428 = 24歳：將軍足利義持の死後の後嗣問題では石清水八幡宮の神前で籤をとることを議し、義円(のち義教)を選ぶ。

..... 1431 = 27歳：

明貿易回復・1432 = 28歳：_父時熙から家督を譲られ、但馬、備後、安芸、伊賀の守護職に就き、弾正少弼・右衛門督を歴任。

..... 1433 = 29歳：延暦寺僧徒が赤松満政らの罪を強訴した山門讞訴事件が起ると、坂本に僧徒を囲んだ。

..... 1435 = 31歳：_父時熙の死により山名氏一門の惣領職を継ぎ、

..... 1437 = 33歳：_*兄持熙が備後で背くと、これを討って分国をかため、惣領権を確立した。<明德の乱>以来の因縁で播磨国守護の赤松満祐と不和になるが、義教の命でいったんは和解。

結城合戦・1440 = 36歳：応永9年に寺納年貢1000石で守護請した高野山領備後大田荘の年々の未進累積額が2万0600石余に達したことを理由に、代官犬橋氏を改替するよう高野山側から訴えられている。_満祐にかわって侍所頭人となった。

嘉吉の乱・1441 = 37歳：_*<嘉吉の乱>では、赤松満祐が將軍義教を弑逆して播磨に帰国すると、討伐軍の主力となって但馬口から攻め込み、城山城を攻略して滅亡させる。乱後に播磨守護職を与えられ、備前、美作も一族の教之、教清が得て、山名氏一門の勢力は8ヵ国に及び、<明德の乱>で失った勢威を回復した。

対馬嘉吉条約1443 = 39歳：_*<嘉吉の乱>で赤松邸で將軍義教とともに横死した前石見守護山名照貴(教清の養子)の娘を猶子として大内持世の養嗣子教弘に嫁せしめ、大内氏との提携を深め、幕閣における地位と権勢をいっそう高めた。

..... 1444 = 40歳：_満政が播磨を奪還し赤松氏の再興をはかろうと挙兵したが、幕命によりこれを討ち、

..... 1445 = 41歳：_摂津国有馬で満政を討ち取った。南禅寺に真乗院、またのち同院内に遠岩軒を建立して外護する。

足利義政將軍1449 = 45歳：

..... 1450 = 46歳：_*家督を教豊に譲り、剃髪して宗全と号したが、なお権勢を保持。南禅寺真乗院を創建して寺領を寄進。この頃、娘を細川勝元に嫁して提携していたが、勝元の同族成之が赤松家の再興を義政に願って許されると、勝元を憎み両者は対立する関係となった。

享徳の乱始・1454 = 51歳：義政は赤松則尚の事件を機として持豊の殺害をはかったが、このときは勝元が救った。しかし則尚は播磨に入ることができたので、

古河公方始・1455 = 52歳：持豊は播磨国にこれを討ち、備前に敗走、自害させた。同じころ、管領畠山家では家督問題が起り、政長と義就が相争い、同じく管領斯波家でも義敏と義廉が対立した。管領家の分裂のうち、政長・義敏は細川勝元を頼ったため、彼らと対立する義就・義廉は持豊に頼ることとなった。

..... 1458 = 54歳：

..... 1465 = 61歳：_將軍義政の室日野富子に子義尚が誕生。すでに義政は弟義視を次の將軍と定めていたが、富子は義尚を將軍の後嗣と定めたいと考え、有力な後援者として持豊を頼ることとなり、將軍家、管領家の分裂とともに細川・山名の対立は決定的となる。

応仁の乱始・1467 = 63歳：_*將軍義政は突然、細川派の畠山政長の管領職を罷免し、斯波義廉を立てた。持豊は諸將を京都に集め、勝元・政長の処分を求め政長を討った。このため將軍義政を擁立する勝元の東軍と持豊の率いる西軍とが京都を戦場として十数年にわたり戦うこととなった。これが応仁の乱である。当初、西軍は「公方の御敵」とされ不利であったが、大内政弘・河野水軍を味方にし、相国寺の合戦では両軍の主力が投入され、最大の激戦となった。勝敗は決せず、小競り合いが続いた。細川氏と敵対関係にあり、山名氏とは姻戚関係にあった大内氏は大軍を上洛させて宗全を援助した。次子足利満隆が東軍細川氏方に属していたため、分国備後などでは戦乱が続き動揺したが、山内氏らの活躍によってしだいに安定した。

足利義政隠居1473 = 69歳：_*戦いは決着をみないまま西陣の邸内に没した。